

2008年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部 教授 氏名： 小澤 亘
研究テーマ	ボランティア文化の比較社会研究:日・韓・加「チーム21」

I. 国際連携先の概要	
提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) 立命館大学 (プロジェクト名) 日・韓・加「チーム21」
共同研究機関	(名称) ソウル大学コリアンスタディーズセンター (代表者) キスー・ウン
共同研究機関	(名称) ライオンソン大学ボランティアセクター研究センター (代表者) アグネス・マイnhard
II. 研究計画の概要	
今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
<p>この15年間は、日本・韓国・カナダ3カ国において、ボランティアと教育にかかわる激変期だった、本プロジェクトは、そうした好機を捉え、3カ国の研究者が連携することによって、ボランティアに関する国際比較研究を進展させようとするものである。2008年1月11日には、韓国・カナダの先端的研究者を迎えて、立命館大学ボランティアセンター主催国際シンポジウム「ボランティアリズムと教育 - カナダ、韓国、そして、日本」が開催された。本プロジェクトは、こうした研究ネットワークをさらに継続・強化することによって、1) 3カ国のボランティア活動に関する既存の公的調査データを基盤とする比較分析、2) 3カ国の教育機関におけるボランティア教育プログラムおよび教育政策の比較分析、3) ボランティアセクターに関わる社会的な比較社会分析などを通じて、ボランティアセクターを民主的で創造的なセクターとして発展させていくための基礎的な知見を得ることを目的とする。</p>	
III. 研究成果の概要	
今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<p>2008年1月のシンポジウムによって結成された日・韓・加「チーム21」に、韓国の若手研究者3名が加わり、上記研究計画にそって、研究協力が推進された。2009年3月7日には、ソウル大学国際研究大学院・立命館大学・韓国ボランティア協議会・ボランティア21共催により、韓国政府の資金も得て、ソウル大学において、国際シンポジウム「加・日・韓におけるボランティア、教育そして市民社会」が開催された。ソウル大学名誉教授のキンドン・キム博士によるボランティア文化に関する基調講演の後、1) 日・韓・加3カ国の全国ボランティア調査データにもとづく最新の分析、2) ボランティア21による2008年調査データにもとづく、ボランティア活動の社会的分析、3) 2007年より東京都に導入された、奉仕教育の評価、ならびに、独自調査データに依拠したボランティア文化の国際比較に関して、調査結果が発表され、研究の相互交流が前回シンポ以上に促進された。2001年ボランティア国際年から10年が経過する2011年に向けて、「チーム21」としても、研究成果を英文研究著作としてまとめいくことが方針化された。今回のシンポジウムには、韓国に学ぶ発展途上国のNGOスタッフも多数参加し、真に国際的で有意義な熱い議論が展開された。</p>	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。